

まもなく暑い夏の季節となります。そこで今回から420年程前に徳川家康より独占漁業権を与えられ将軍家へ新鮮な魚介類を献上してきた、遠浅で豊かな漁場の船橋の海・三番瀬の魅力をも3回にわたりご案内します。

「三番瀬(さんばんぜ)」

三番瀬は、東京湾の最奥部に位置し、船橋、習志野、浦安、市川各市の東京湾沿いに広がる1,800ha(540万坪)東京ドーム383個分の干潟・浅海域です。深い場所でも干潮時の水深が5m程の浅瀬(沖合2~3km程)で、日々繰り返される干満により土の中に酸素が供給され、多くの生物を育てています。

昭和2~30年代までの船橋の海辺、三番瀬から対岸の葛西、江戸川河口までかつての塩田跡には葦原が延々と続き豊かな漁場でした。

その後の高度経済成長で京葉工業地帯として埋め立てられた場所(約200万坪)も多いが、「ふなばし三番瀬海浜公園」の前面に広がる干潟には、ハゼ、アサリ、カニ、ゴカイ等の底生生物が多く生息し、それらを狙って隣の習志野・谷津干潟(ラムサール条約登録)同様に多くの魚や水鳥(スズガモ毎年3~6万羽、ハマヅキ平均2,500羽:千葉県調査1996年)等が生息している、三番瀬の豊かな恵みを見ることが出来る貴重な場所です。船橋は都市近郊でありながら今でも本格的漁業が400年以上も続いており出世魚のスズキの水揚げは日本一の街です。

毎年11月~2月には、三番瀬から見事なダイヤモンド富士を見ることが出来る、多くのアマチュアカメラマンで賑わいます。(写真提供:①、③街歩き仲間井原正明氏)

「三番瀬 海の眺め」



①三番瀬から見る幕張新都心、手前の白い島は貝殻だけで出来ている、まさに貝殻島



②三番瀬から見る船橋漁港と船橋の街、手前はポートパーク(写真:NHK 新日本風土記・船橋より)



③三番瀬から見る、ダイヤモンド富士(ふなばし三番瀬海浜公園から撮影)